アフガニスタンチャリティカレンダー2010 ご協力ありがとうございました！

大きくて見やすい壁掛け型

・A２変形版（見開き縦 560mm× 横 420mm） ・フルカラー

□定価 1,500円（税込）
□10部 10,000円（税込）
1部あたり 1,000円 33%OFF!!

コンパクトで使いやすくて かわいい！卓上型

・専用コルクボード 幅 170mm× 高さ 120mm× 厚み 6mm
・本体カード 幅 160mm× 高さ 110mm フルカラー（ハガキよりひとまわり大きめ）

□定価 1,000円（税込）
□10個 8,000円（税込）
1個あたり 800円 20%OFF!!

＊すでにコルクボードをお持ちの方など、本体カードのみご購入の場合は１個につき 100円エコ割引♪

2009 年 10 月 発 売 の、2010 年版アフガニスタンチャリティカレンダーは、6,300 部を販売し、2,696,520 円の支援金を作ることができました。送金総額はこの５年間で約 1,210 万円になりました。みなさまのご協力、本当にありがとうございます！これからも応援、どうぞよろしくお願いいたします。

今回支援金２７０万円・総額1，２１０万円

MMCC サポーターを募集しています！

あなたもサポーターになりませんか！？

会費は１口 300 円／月です。全額がアフガニスタン MMCC に送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年４回、現地の様子を伝える「MMCC ニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしての JAPAN-MMCC を継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、日本で見聞きすることはどれも残念なニュースばかりです。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではありません。戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しいものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさんの子どもたちと共有することが、MMCC をはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしくお願いいたします。
理事長：今川夏如

月々 300 円で、活動を支えてください！

MMCC ニュースの発行頻度が変わります。

年４回の定期発行から、年２～３回の不定期発行になります。渡航の時期や、現地でのビッグニュースなどに合わせて、適宜ニュースの制作を行います。ずっと続けていきたいからこそ、時には無理をしないことも大切かと。なにとぞご了承下さいませ。スタッフ一同。

MMCC ニュースの配布先を紹介してください。

MMCC ニュースの配布先を紹介してください♪このニュースを、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。

NPO法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。
私たちの活動に賛同し、協力してくださるメンバーを募集しています！

正会員	年会費 １口 10,000 円 総会での議決権を持ちます。不定期でニュースをお届けします。
賛助会員	年会費 １口 3,000 円（寄付）不定期でニュースをお届けします。活動を支えてください♪
団体賛助会員	年会費 １口 10,000 円（寄付）不定期でニュースをお届けします。活動を支えてください♪
MMCCサポーター	年会費 １口 3,600 円（寄付）不定期で MMCC ニュースをお届けします。アフガン事業へ♪
※メールアドレス	1アカウント 3,150 円／年

お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com
○○○@yumeuta.com または○○○@japan-mmcc.com 郵便振替 001 60-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCCニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。

MMCC NEWS VOL.10
特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊
〒338-0811 さいたま市桜区白鍬 202-19
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772
発行人 JAPAN-MMCC 代表 今川夏如
不定期発行（年２～３回）
Afghanistan Mobile Mini Circus for Children
２０１０年2月１５日（Vol.10）

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける！

あの日から、もうすぐ８年です。

▲２００2年夏。初めて訪れたアフガニスタンで開催されたコンサート。エンディングはアフガンの伝統的な踊り。中央に今川夏如（当時 23）

初めてアフガニスタンを訪れ、ムスタファホテルという、まるで牢獄のようなホテルに宿泊しつつ、近くの職業訓練校に出かけ、子どもたちのコンサートの準備をしていた。毎日のように仲間が増え、地元のメンバーが加わる。そのたびに、新しいアイデアと、不可能と思われていたコンサートが、もしかしたら、できるかもしれない!に変わっていった。今思えば、この感覚こそ、アフガンの子どもたちに、私が一番伝えたいことで、日本の子どもたちにも感じてもらいたいことなんだ。あきらめずにがんばれば、仲間があつまって、ひとりじゃできないことだって、できるようになる。同じように、アフガンでサーカス団を作りたい!なんて思っている、変な奴らとトモダチになり、私も仲間に加わった。よし!このコンサートを、ぼくたちMMCCの初回公演にしてしまおう!そのときから、すべてがはじまった。今では100 万人をこえる子どもたちに、“夢”と“笑い”と“教育”を届ける、一大サーカス団になった。モバイルミニサーカスの「ミニ」は、なくならない。なぜなら、モバイルミニミニミニミニサーカスだから。♪

今日はメインステージだ。観客は 900 人ほど。子どもがほとんどだ。日本と中国のアーティストによるパフォーマンス。舞踏。そして、アフガンミュージック。どれも驚くほどうまくいった。子どもたちも興奮して、ステージも客席もなくなってしまう。みんなで一緒に踊ったり、アフガンの歌を歌ったりした。たくさんの人が、音楽を学びたいと言ってくる。20 年間こんなコンサートはなかった。私たちにはわからない感覚だろう。子どもたちにとって、生の音楽を聴くのは初めての場合もある。そして、アフガンのナショナルソング（一番有名な歌）でさえ、聞くのは初めてといった子どももいる。ほとんどのメディアが取材に来て、大変な騒ぎになった。女性が人前で歌を歌ったりダンスをするなどもってのほかである。そんな国で女性も一緒に踊る。これはすごく大きな意味がある。女の子たちも身を乗り出して見ている。外国の音楽を持ち込むことはどうかと思っていたが、そんなことを考える必要は全くない。もちろん、アフガンの伝統音楽は大切だ。かといって、伝統音楽だけでいいわけではないし、伝統は、今ここにいる子どもたちが受け継ぎ、作り上げていくモノだ。アフガンの踊りを一緒に踊れたことは、すごくうれしい。まずは、お互いを知ることだ。
【アフガン滞在記】2002/08/29 より抜粋

休日は何をしようにも難しい。だいいち、「休日」とはなんだ?「休む日」と書くんだよ。いつもそれを忘れてしまう。休も。座って日記を書くことにした。日記を書いていると、だんだんみんなが帰ってきて、いつのまにか一緒にご飯を食べながら、コンサートの準備について話し合っている。あれ?おれ以外はみんな関係ない人だべ。私日本人。デイビットがデンマーク人。シンガポール人。オーストラリア人。彼らはみないつもここで情報交換をしている仲間だ。いつもはほかに数人。（スペイン人とオーストラリア人の二人が今日は遠くまで取材いに行っている。中華もどきレストランで会った時にそういっていた。）みんなでブーブー言い合いながら招待状を作っている。おそらく、みんなが抱えている仕事からすると、遊び感覚でできるものなのだろう。気楽に意見を言い合い、笑いあっている。アフガン人のウェイターも加わった。彼が仕事に戻るとき、「兄弟姉妹を連れてコンサートにおいでよ」と、誰ともなく声をかけた。彼は、「姉妹はいない」と答えた。また、「なら兄弟を連れておいで。」いや、おれは一人っ子なんだ。一同笑いながら「珍しい!普通１０人くらいは家族がいるでしょ?」「今は母と二人暮らし。他の家族はタリバンが来たときにロケット弾でみんな死んでしまったよ。」と。「母と一緒に見に行くよ。楽しみだ。」と最後に付け加えた。この国でコンサートをやるということ、娯楽をやるということの意味、とてつもなく大きなことなのだと、思い出した。みんなもいつもならそれを実感していたが、外国人だけのホテルの中で、ふと忘れてしまっていた。そう、ここはカブール。アフガニスタン。街中に壊れた建物、銃弾の後、マシンガンを持った軍人が常にいる、何十年も戦火の耐えない国なのだ。平和とは何だ。報復に反対していた私は、何をどう考えていいかわからない。ここでは、家族を失ったり、手足を失ったり、失うものがあることが当たり前になりすぎている。私のあだ名はハイテクマン。小さなパソコンに、小さなデジタルカメラ、ビデオカメラ、日本の携帯電話、ギター。何でも持っている。しかし、何が大切なのかがわからなくなっている。
【アフガン滞在記】2002/08/23 より抜粋

▲左から、シンガポール人、オーストラリア人。私と、後にMMCCを設立するデイビット

職業訓練校の片隅で小さな夢が生まれた

▲2002 年「子供劇団」ASCHIANA にて

2002 年、カブールの中心地にあった(現在は地価の高騰のため立ち退き移転)職業訓練校の片隅にあつまって、小さな劇団として活動を始めた。まだ「子供劇団」という名前で、ＭＭＣＣでは無かった。教育的な演劇を通じて、知識と夢と笑いを届ける活動は、本当に小さな小さな試みのひとつとしてはじまった。無いものを探すより、あるものを言った方が早い。衣装や舞台装飾はもちろん、着の身着のまま。ちょっとした手作りの小道具を抱えて各地を回り始めた。もちろん事務所なんか無い。まずは、歩き始めること。待つのはもうやめよう。

▲身体ひとつで演劇プログラムを

▲当時の平和教育プログラムの一幕

教室の片隅から広い世界へ！

小さな教室の片隅から歩き始めたMMCC は、その後もアフガニスタン全土に笑いと教育を届け続けた。その規模は年々大きくなり、カブールの他に、バーミヤンにも支部ができた。これらのセンターでは、子どもたちは日々歌やジャグリングなど、自分がやりたいことを、思いっきり楽しんで練習している。

そして、昨年の夏。MMCC は、アフガニスタン各地で、子どもたちの日頃の成果を披露する、盛大なフェスティバルを開催した。MMCC の歩みは、一歩一歩着実に進み、今ではアフガニスタン各地の子ども達が、たくさんの夢や希望を作り出す主人公になっている。

マザリシャリフフェスティバル

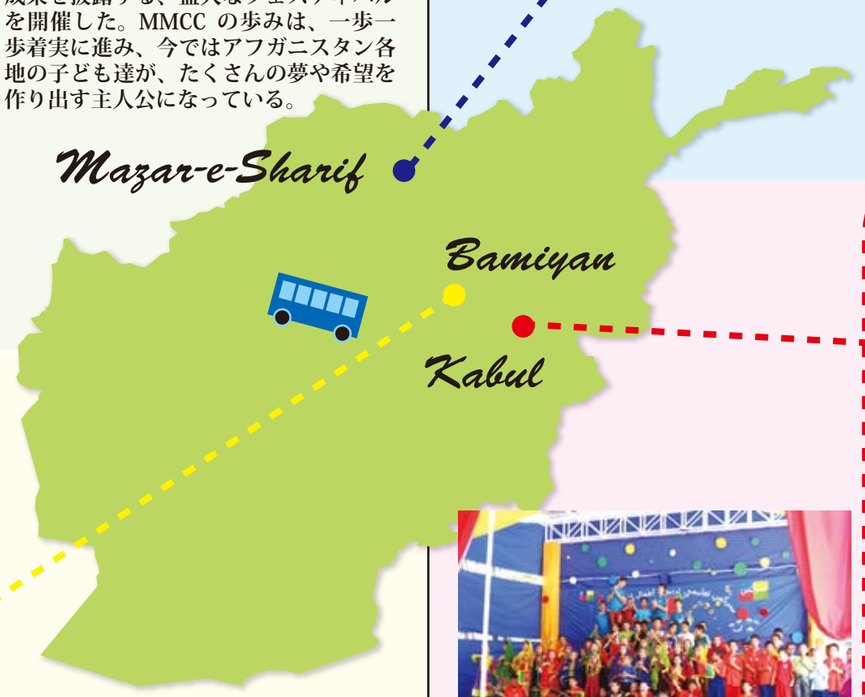
8 月の初旬、バーミヤンを訪れたのとは別のカブール MMCC のチームが、マザリシャリフでフェスティバルを行うために現地を訪れました。

マザリシャリシャリフフェスティバル、通称マザールフェスティバルは、ファミリーパークで行われました。ここは、MMCC の子どもアーティストたちがパフォーマンスを行った場所でもありました。

MMCC は通常の活動をできるセンターを、まだマザリシャリフに持っていませんでしたが、これはこの地域で 2 回目のフェスティバルで、恒例のサマーサーカスフェスティバルとなりました。

▲ハズラット・アリー廟にて記念写真

夜のパフォーマンス（左）
見つめる子ども達（右）▶



カブールフェスティバル ～サーカスチャンピオンシップ～

おまつりさわぎは朝から、夜遅くまで続きました。この夏、MMCC が静かな日は、ほとんどありませんでした。毎年 7 月、子ども達が夏休みの時期を利用して、MMCC のセンターでは毎年恒例のサーカスチャンピオンシップが行われます。今年のチャンピオンシップは長いサーカスフェスティバルの歴史の中でも、5,6 社のテレビ局に取材されるなど、とても盛大なものとなりました。

毎年、新しい才能と記録、そしてより高度なパフォーマンス技術が、チャンピオンシップ期間中に見られます。

そんなおまつりの目玉は、MMCC の子どもたちによる、全く新しいビックパフォーマンスです。45 分間にわたる活気に満ちたサーカスは 100 人の子どもたちによって、ジャグリング、ジャンプ、歌のパフォーマンスを織り交ぜて疲労され、大勢の観客達を楽しませていました。そして、ローラースケートと一輪車の芸も披露され、さらに会場を沸かせました。カブール MMCC の庭には、子ども達の努力の結晶が集まった、ビックステージができあがりました。

また、夏休みの間、ヘラート、バーミヤン、ジャララバードから来た 15 人の子ども たちも、三週間のカブールの MMCC センターで行われるサーカスサマーキャンプに招待された。三週間をカブールで過ごした各地域の子どもたちは今、それぞれの街のセンターに戻り、カブール事務所で学んだ技術を、他の 子どもたちに伝えています。

▲圧巻の100人パフォーマンス

▲たくさんの観客達が見守る

▲インタビューを受けました

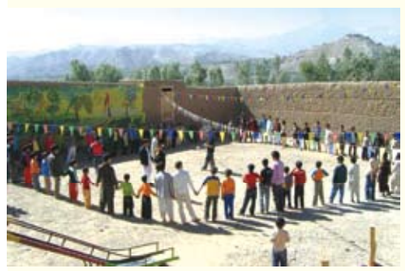
▲ボールジャグリング隊！

バーミヤンフェスティバル

8 月初旬に、カブール MMCC のメンバーが、バーミヤン MMCC の子どもたちと一緒にフェスティバルを創り上げるために、バーミヤンを訪れました。フェスティバルはピクニックスポットとして有名な、バンデアミールでのパフォーマンスとともに始まりました。その後、5 日間にわたるワークショップとイベントが、バーミヤンにある新しい MMCC のセンターで行われました。これは、子どもたちだけでなく、家族の人たち向けにも行われました。

このワークショップ期間中、カブール MMCC の子どもたちは、バーミヤン MMCC の子どもたちに、演劇、歌、ジャグリング、そしてアクロバットを、先生と一緒に教えました。

これらに加えて、ワークショップでは、絵画、裁縫、そして MMCC のスタッフによって準備されたいろいろなゲームも行われ、バーミヤンの子ども達を楽しませました。



▲山の麓でワークショップ

▲男の子達のアクロバット

▲バーミヤンにも歌声が響く

ＭＭＣＣってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタンＭＭＣＣです。わたしたちはアフガニスタンで設立されたＮＧＯなので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議なご縁で、日本にたくさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかく読んでいただいているので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれませんか？ニュースを読んでもわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるトモダチになんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています！！！アフガニスタンでは大きく次の４つのプログラムを行っています♪

移動サーカス（モバイルサーカス）

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。

※写真は「手を洗おう！」

チルドレン・カルチャーセンター

15 の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、叩いたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

ワークショップ 実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければできないことをやってみる。社会の中での役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。

ティーチャートレーニング（教員養成）

長い戦争で教育インフラの 85％が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもの興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、ＭＭＣＣの最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。